

平成30年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立新翔高等学校 学校長名： 東 啓 史 印

<p>目指す学校像</p> <p>育てたい生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれ、地域から信頼される学校 ・豊かな感性と思いやりの心を持った時代の変化に主体的に対応できる生徒 ・社会に役立ち、社会及び地域社会に求められる生徒
<p>本年度の重点目標</p> <p>(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)</p>	<p>1 多様な生徒に対応するため授業改善を進め、学力の向上を図る。</p> <p>2 社会との繋がりを意識させ、モラルや規律を遵守する姿勢を育てる。</p> <p>3 防災・安全教育を通し、自他の生命を尊重する態度を育てる。</p> <p>4 キャリア教育を充実させ、生徒の希望進路の実現を図る。</p>

<p>中期的な目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導制度の整備と充実 ・きのくにコミュニティスクールを活用した学校運営 ・校内のICT環境の整備とICT活用教育の推進及び担当教員の育成
<p>学校評価の結果と改善方策の公表の方法</p>	<p>育友会総会並びに学校運営協議会の場で自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせる。また、ホームページを通して広く公表する。</p>

<p>達成度</p>	A	十分達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 8 日 現 在)		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	達 成 度		
1	<p>小・中学校時代に躓き、学習習慣が確立されていないため、自主的に学習に取り組もうとする姿勢が弱く、基礎が不十分で達成感が低く、授業参加に積極的になれない生徒が多いのが現状である。課題は進路目標を早期に設定させ、常に目標を意識させるとともに、その達成に向け努力させる指導にある。そのためには、学年や進路指導部との連携を密に行い計画的な取り組みが行えるよう教務的な観点から検討し、学習習慣を定着させる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的に個別指導などに取り組んでいるか ・積極的に授業に参加させることができているか ・教育改革への準備はできているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を定着させるための支援と補習の充実 ・自主的・協働的な学習態度の育成(課題解決型) ・生徒の学習意欲の向上、教員の授業力・指導力の向上(主体的・対話的で深い学び) ・学習障害のある生徒への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前の個別指導や補習の実施 ・長期休暇中の補習の実施 ・個人目標の設定と課題等の提出率100%化 ・授業改善のための研究授業、公開授業・研究協議の実施 ・黒板の使用法の統一化 全員参加の校内研修実施 	B	<p>個別指導や補習については、学習支援が必要な生徒だけでなく、積極的な参加もあり良好であった。提出物については100%には至らなかったが、提出を促す努力をした結果昨年度に比べて提出率は向上した。授業改善については、授業改善検討委員会を立ち上げまずユニバーサルデザインの立場から授業見学を積極的に行い、どの項目に該当するかまとめた。また、多くの教員がICTを活用した授業に積極的に取り組めた。通級指導については、教育相談支援部を中心に2学期以降放課後熱心に指導している。</p>	<p>個人目標の設定については進路等の目標を早期に設定させ、様々な場面でアドバイスをするなど常に意識させ目標達成に向け努力を継続させる。気軽に授業が見せ合える環境整備に努め、研究授業の活発化につなげる。授業改善については、基礎学力の充実、授業規律の確立についても取り組んでいきたい。ICT活用と「主体的・対話的・深い」学びにつながる授業につとめる。また、通級指導のさらなる研究と有効な活用に取り組む。</p>
2	<p>学校生活全般において、やや依存型で自ら考え行動できる生徒が減少している傾向にある。大多数は素直で純朴な生徒であるが、中には幼さが残り、規範意識や道徳観が十分備わっておらず校則違反や他者への思いやりに欠ける言動を繰り返してしまう生徒もいる。また、保護者の放任や教育力の低下といった家庭環境の不十分さにより自尊感情や自己肯定感が育たず、問題行動や不登校につながる傾向も見られる。さらには、人権を無視した言動や行動が見られるようになり、人を大切に思えない現状がうかがえる。こうした課題に対して、HR活動、生徒会活動、部活動等の活性化を図ることで自己有用感や集団帰属意識を高めていけるよう取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織での一体化した指導ができているか ・問題行動に対し改心や成長を促す指導ができているか ・生徒の実態や課題に応じた学習の機会を計画的に設けているか ・校内美化活動を推進し、生徒会活動を活発化させているか ・各委員会活動が活発に行われ、生徒の自主的活動がみられるか ・人権教育と連携した生徒指導がなされているか ・部活動に参加し、自らを心身ともに鍛えようとしているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則・モラル遵守徹底のための指導 校門指導や休憩時間中の校内巡視や昼休みの校門指導の実施 ・問題行動や不登校の生徒に対する教育相談、保健室と連携した指導 ・人権教育の推進 ・人権尊重精神の涵養 ・生徒会活動の活発化 ・部活動に参加し、自らを心身ともに鍛えようとしているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な服装頭髪検査 ・チェック表を用いた指導 ・アセンブリー、各種講演等での講話 ・Q Uテストの実施と活用 ・迅速かつ適切な事情聴取、面談、ケース会議等の実施 ・家庭との連携 ・教育相談、SC、SSW、各種外部機関等との連携 ・人権LHR等の計画的実施 ・いじめアンケート年3回実施 ・定期的な委員会活動日の設定や朝の朝の挨拶運動の実施 ・HR役員による自主的な清掃活動の実施 ・中学校との連携、交流活動等の推進 	B	<p>定期的な服装検査や種々の講話、チェック表を用いた指導を通して、茶髪や服装の乱れは改善されてきた。問題行動も、行為の反省に加えルールの必要性、仲間や保護者の存在等を考えさせることで、行動を律する姿勢を育むことができた。いじめアンケートでは、仲間意識や人権尊重の精神も向上してきていると思われる。一部の生徒ではあるが、SNSやライン等で生徒間においても配慮に欠ける事案が起きている。その都度、生徒指導部を中心に学校全体で早急かつ適正に指導した。昨年度より新たに導入したトイレ清掃は、校内美化並びに施設設備を大切にする心を育む取り組みとなった。文化祭・体育祭等の学校行事では、生徒の自主的な参加が見られるとともに生徒会活動も活発になりつつある。部活動では、カヌー部、水泳部、弓道部が近畿大会に出場した。レスリング競技については県、近畿大会、インターハイに参加した。</p>	<p>チェック表を用いた指導では、記入する教師が限定されている。全職員の共通行動によりスカート丈や化粧、ワックス等の規律違反は更に減ると考えられる。新入生の規律遵守の姿勢や意識が低下しており、自己中心的な言動が目立つようになってきたため、入学当初から教職員が連携し、深く関わりながら指導を展開する必要がある。本年度から通級指導が開始され、例年以上に人権担当・教育相談と連携して、障害者理解のための人権学習(講演会)を実施し、人権意識向上に取り組む必要がある。自分の行動が他の迷惑や規律違反にならないか判断でき、生徒会メンバー自らも、その基準を作れるよう指導していきたい。クラブ員の減少は厳しい現状だが、体育系・文化系とも活発化に向け支援したい。</p>
3	<p>基本的な生活習慣の欠如から、体力的、精神的に望ましい成長が見られず、自分の健康や安全に対する意識が不十分な生徒も見受けられるため、保護者や地域、各関係機関との連携や協力の下、生命の大切さを啓発していく。防災面では、今後発生する確率が高まっている南海トラフ地震や水害等に対し、「自助」、さらには「共助」「公助」に向け、これまで以上に効果的に防災意識を高められるよう取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にするための取組が計画的に実施されているか ・保護者や地域、防災関係機関との連携や協力体制が図られているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育・健康教育の計画的推進 ・校内防災組織・整備の充実 ・職員による防災訓練の実施 ・防災スクールの実施(地域との連携) ・地域の防災関連行事への参加(地域との連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、薬物乱用、防煙、性教育等各種講演の実施 ・防災訓練の複数実施 ・メール一斉配信の登録数増加 ・学校掲示板の周知徹底(生徒/保護者) ・防災科目内容の充実 ・防災委員(生徒)の積極的な活動 ・実施、参加後のアンケート結果の集約と活用 ・保護者や地域の方の協力及び参加人数 ・各種外部団体との連携強化 	B	<p>交通安全や防煙、情報モラルに関する講座を計画的に実施することができた。防災スクールや地域の災害ボランティア等に積極的に参加し、防災意識の向上が図れた。年度初め、津波防災の日、学年末の3回、地震・津波の避難訓練を実施した。学年末の訓練では本年度は休憩時間中に訓練を実施し、より実践的な取り組みとなった。学年掲示板を設置するなど、連絡体制を強化し、そのことを年度初めの防災訓練で、生徒・保護者に徹底している。学校運営協議会については、委員の皆様と忌憚のない話し合いを行い情報を発信していきたい。</p>	<p>講演等により高められた意識をその後も定着させるための工夫をする。防災訓練の内容等のさらなる充実を図る。避難時の鉄則である「お・は・し・も」(押さない・走らない・しゃべらない・もどらない)をさらに徹底できるような避難訓練事前学習等を充実させたい。年度末の訓練での課題(放送設備・消火活動・救命救護)について充実した取り組みとなるよう計画する。「自助」、「共助」「公助」に向け、効果的に防災意識を高められる取り組みを充実させていきたい。</p>
4	<p>進路関係未決定者の更なる減少に向けて、分掌・学年・クラブ顧問と密に連携する。生徒・保護者の進路に 職業安定所等の外部機関との連携を継続していく。生徒が安易な進路選択とならないような指導、卒業後の進路先に必要な力をつけるために組織的な取り組み。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が勤労観・職業観を高めるための具体的な取組が行われているか ・卒業後、進路先で適応していける力をつけるための取組がなされているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総学」での取組、補習・個別指導等による基礎学力の養成 ・個人面談の充実 ・応募前職場見学の推進 ・職業安定所など外部機関との連携、外部講師や卒業生による進路講演会やガイダンスの積極的実施 ・進学希望者に対する計画的指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者数の減少 ・フリーター希望者数の数 ・応募前職場見学者数とその割合 ・進路未決定者の減少 ・進学模試受験者数 	B	<p>就職・進学ともに進路実績を伸ばすことができた。また年度末毎に「総合的な学習の時間」の取組方法を改善してきたことも、進路実績の向上につながった。進学面では、特に継続的な進学補習が実を結び、昨年度同様、看護系を中心に成果を上げた。外部機関とは、ハローワークをはじめ、綿密な連携をとることができた。また、外部講師や卒業生による講演も実施することができ、生徒にとって良い刺激になった。社会福祉協議会との連携による介護資格取得の取り組みも着実に成果をあげている。</p>	<p>「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」において、更に内容を検討し、確かな学力の向上につながるよう改善していく。生徒が持っているドリルを、各教科・各学年等で積極的に活用させることで、基礎学力の定着を図りたい。進路未決定者に対する関わり方を、分掌・学年、さらにクラブ顧問とも連携して検討していき、100%の進路実現を目指す。外部機関とは、さらに綿密な連携がとれるよう努める。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
平成31年 3月 8日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
(意見)	<p>○日頃は生徒たちの活躍を新聞等で拝見し、たのもしくうれしく感じています。昨年は、学校運営協議会で「魅力ある新翔高校」にするためにはを検討し、多くの意見が出て早速広報活動に取り組むなど、成果は出ていると思う。○学校のHPの改善、新聞等への情報提供、学校説明会、オープンスクールの取組等、今年度はいくつかの案が実行に移され新翔生の活動が多くの人の知るところとなり非常に評価できる。○1年間多方面にわたりご苦労さまです。引き続き努力を重ね生徒の皆さんの社会的自立実現に向けて一致団結して取り組んで行ければと願います。</p>
(要望)	<p>○進学の情報を詳しく提供してほしい。公務員試験に対して合格者が出せるような取組がほしい。もう少し積極的な進路指導を1年生から必要ではないか。</p>
(評価)	<p>質問10項目中8項目において、A(そう思う)とB(どちらかというと思う)を合わせて85%(86.1%)を超え、一般的に肯定的な評価をいただいた。もともと評価が高かったのは、gの「本校の学校行事等で充実した体験活動などが行われていると思いますか」でAの評価が69.2%、次いでa「本校の生徒は、明るく生き生きと学校生活を送っていると思いますか」でAの評価が46.1%であった。このことから、今年度ホームページや学校新聞、中学生体験学習や中高連絡協議会、進路説明会において「新翔高校の魅力」を新翔高校生徒自らの力でアピールでき、充実した高校生活を送れていると受け止めていただけたことに素直にうれしさを感じる。また、d「本校には、他の学校にない特色があると思いますか」でAの評価が38.4%と3番目に多く、本校総合学科の他の学校にはない特色、例えば「福祉」「観光」「防災」という特色有る科目が学習でき、その科目に関連した資格が取れ、それを生かした仕事に就くことができるなど、大きな特色を社会にもアピールできていると思われる。その他、b「本校は、保護者や地域の方々や情報交換したり、協議したりする機会を設けていると思いますか」とc「本校の日常の教育活動に、保護者や地域の意見が採り入れられていると思いますか」の2つの質問に対してAとBの評価を合わせると80%以上となり、育友会総会や進学保護者会など様々な機会を捉えて学校側からの情報発信を効果的に行いつつ、学校運営協議会や保護者懇談会といった外部からの学校教育活動に対する意見を直接吸収、集約できる場を設定してきた成果と考える。</p> <p>f「本校では基本的な生活習慣や規範意識を身につけるため適切な指導が行われていると思いますか」についても高評価(AとBで84.6%)をいただいた。あらゆる教育活動を通して、全教職員で生徒指導のさらなる徹底と充実にも努めたい。質問全体を通して、D：そう思わないの評価がゼロであった。これは、厳しい意見をいただく学校運営協議会委員と育友会役員のみならず、暖かい目で見守ってくださる結果の表れだと思われる。私たち教職員は、この結果に甘えることなく、「社会に役立ち、地域に貢献できる人材の育成」に引き続き取り組んで行かなければならない。</p>